

うみ しょくぶつ 海の植物？アマモとは？



「アマモ」や「アマモ場」という言葉を聞いたことはありますか？アマモ（学名：Zostera marina）とは、浅瀬に生息する海の植物の一種で、光が十分に届く水深1～3mの海底に根を張って成長します。私たちが普段食べるワカメやノリ等の「海藻」と違い、海の中で花を咲かせて、種子によって増えるイネ科の植物です（ワカメ・ノリ等の海藻は孢子で増えます）。



▲浅瀬に生えるアマモ
(たつの市 新舞子浜)

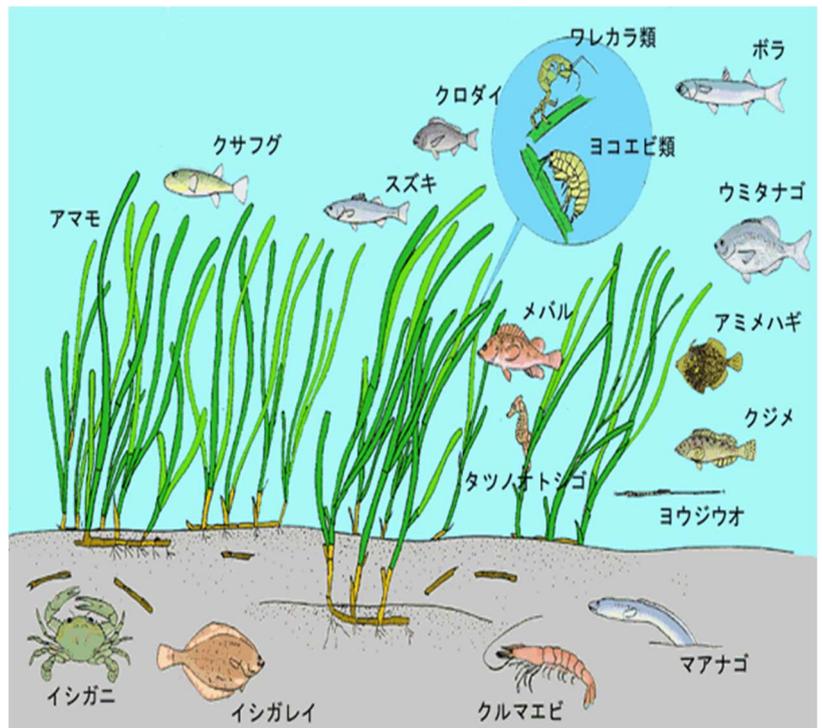


アマモ場は海のゆりかご？



アマモがたくさん生えている場所をアマモ場と言います。アマモ場は海の生き物たちに産卵場所や外敵からの隠れ家として利用され、さまざまな生物を育むことから「海のゆりかご」と呼ばれています。

アマモを食べる魚はメジナ類、アイゴ類など、意外と少ないのですが、それでもアマモ場に魚がたくさん集まるのは、アマモの葉上に潜む小型の甲殻類である「ワレカラ類」や「ヨコエビ類」等の生物を食べにくるからです。アマモ場はその他にも、海水の汚れを取り除く、水中の酸素を増やす、海底の土壌を安定させる等、働きは多岐にわたります。



▶アマモ場の生き物たち 環境省HP せとうちネットより

アマモ場で観察された生き物を紹介



タツノオトシゴ (サンゴタツ)

タツノオトシゴの中では最も小さく、吻(口の部分)が長いのが特徴。沿岸や内湾の藻場に生息しています。



ウシノシタ科の一種

スーパーでは「シタピラメ」の名前で売られています。砂地に潜んで水生生物(ゴカイ等)を捕食するカレイの仲間です。



キヌバリ

ハゼ科の魚ですが、遊泳力に優れており、藻場に潜みながらエビ等の甲殻類を捕食します。体のシマシマの模様が特徴です。

ばさいせい とりく アマモ場再生の取組み

1960年頃、瀬戸内海に約22,635ha存在したアマモ場ですが、1990年には約6,040 ha と、およそ4分の1ほどに面積が減少しています。

減少した要因としては、高度経済成長時に行われた干潟や浅海域における埋め立て工事、水質の悪化による透明度の低下が考えられています。

近年はアマモ場の重要性が認識され、残された海域に生息するアマモを保護する活動が地域で広がっています。



埋め立てられた干潟・浅瀬は工場や農地等に利用されました。

ばさいせい とりく じれい しょうかい アマモ場再生の取組み事例を紹介

アマモを保護する活動として、瀬戸内海に面している相生湾でアマモ場の再生に取り組まれている団体の活動を紹介します。

相生湾自然再生学習会議では、地域の子供たちと相生湾を生物多様性豊かな里海に蘇らせる活動を行い、相生湾から瀬戸内海へ、そこから太平洋、世界の海へとつながっているということを伝えながら、日々、身近な海の環境問題に取り組んでいます。

アマモの移植事業については、水質悪化等の影響で相生湾から減少したアマモを復活させるため、2014年から相生市の近隣小学校の児童と一緒に、陸上でアマモを育ててアマモポット苗として海に戻すほか、浅海へアマモの種をまくなどの方法で取り組んでいます。



環境省HP相生湾再生への取組み（相生市）より抜粋

アクティブ・レンジャーを出前授業に呼んでみませんか？

この記事を書いた兵庫県南部・瀬戸内海側にある神戸自然保護官事務所の中村（なかむら）です。自然の中で遊べる出前授業も行っています。

↓↓興味のある方は、お気軽に下記までご相談ください↓↓

環境省 神戸自然保護官事務所 TEL：078-331-1146 FAX：078-331-1148

竹野自然保護官事務所 TEL：0796-47-0236 FAX：0796-47-0249

